

伊藤忠商事や三菱ガス化学など、燃料DMEの生産・出荷体制を確立し初出荷

燃料DME製造、生産体制を確立、年8万トン体制で1月にも初出荷

2008/12/19, , 化学工業日報, 2 ページ, 有, 806 文字

燃料DME製造(FDME、石和田彰社長)は18日、三菱ガス化学・新潟工場で完工・試運転に入っていたジメチルエーテル(DME)普及促進プラントが生産体制を整えたと発表した。経済産業省の補助金を受け建設を進めている燃料DMEの第1号利用者のボイラー設備が完成し設備使用許可が得られ次第、1月にも初出荷する公算。

同社は三菱ガス化学29・15%、伊藤忠商事13・25%、石油資源開発12%、太陽石油10%、トタルDMEジャパン10%、豊田通商10%、日揮5・3%、三菱重工業5・3%、三菱化学5%によって07年4月に設立された。今年6月には三菱ガス化学・新潟工場で年産8万トンのDME普及促進プラントが完工、試運転に入っていた。このほど試運転を終えるとともに、今月には出荷用ローリー車両2台を確保、生産・出荷体制が整った。

DMEはLPGに類似し、輸送・貯蔵が容易なことから中国ではLPGの補完として商業化が始まっている。酸素含有率が35%のためディーゼル燃料補完としても排ガス中にスス(PM)が発生しないほか、硫黄分・窒素・芳香族などを含まず効率的利用でCO2削減も可能。また天然ガスや石炭など世界中に分散する豊富な燃料ソースからメタノールを経由して容易に製造できるメリットを持つ。最近では水素を簡単かつ多量に抽出できるため燃料電池のエネルギー源としても注目を集めている。

ただ国内では燃料目的としての大型製造プラントがなく、実績もないため市場は未成熟だった。普及については政府も重要案件としてエネルギー基本計画に記載、製造技術や利用技術の開発などさまざまな支援を実施している。

今回の第1号利用者の一正蒲鉾も、今年度のDME燃料利用設備導入促進補助事業に応募、8月に交付が決定していたもので、経産省の補助金を受けて現在ボイラー設備の建設を進めている。完成し当局の設備使用許可が得られ次第、年明けにも初出荷となる。

三菱ガス化学など新燃料来月出荷

2008/12/19, , FujiSankei Business i., 6 ページ, , 293 文字

三菱ガス化学や伊藤忠商事、太陽石油、石油資源開発など9社が出資する燃料DME製造(FDME、新潟市中央区)は18日、新燃料として注目されているDME(ジメチルエーテル)の出荷を、2009年1月から開始すると発表した。

DMEは現在、主に塗料や殺虫剤、化粧品などのスプレー噴射剤として使用されている。天然ガスや石炭、バイオマスから簡単に製造でき、物性がLPガスに似て取り扱いが簡単なため、LPガスやディーゼル燃料などを補完する役割を果たす。また、重油や石炭に比べ二酸化炭素(CO2)の発生量を抑制できるため、ボイラーや発電などにも幅広く利用できる。DMEプラントの年産能力は8万トン。

FDMEが生産・出荷体制を確立 試運転完了、1月にも初出荷

2008/12/19, , 電気新聞, 3 ページ, , 424 文字

三菱ガス化学、伊藤忠商事、石油資源開発などが出資する燃料DME製造(FDME、新潟市、石和田彰社長)は18日、今年6月に新潟市内に完成した年産8万トンのジメチルエーテル(DME)普及促進プラントの生産・出荷体制を確立したと発表した。このほど試運転を完了するとともに、出荷用の11トン積みローリー車両2台を確保した。09年1月にも初出荷する。DMEは、物性がLPG(液化石油ガス)に似ており、取り扱いが容易なことから、LPG、ディーゼル燃料などを代替・補完する燃料として実用化への期待が高まっている。重油や石炭に比べると、二酸化炭素の発生量を削減することができ、すずや硫酸化物(SOx)が発生しないのも特長。

FDMEには化学メーカー、石油会社、商社、機械メーカーから9社が資本参加し、メタノール脱水法によるDMEの普及促進プラントを建設した。製造したDMEをボイラー、工業炉、発電機、自動車、化学原料など各分野に供給しながら普及活動を進める。

燃料DME09年1月にローリーで初出荷 SK、太陽など参加、生産・出荷体制整備

2008/12/19, , 石油通信, , 811 文字

石油資源開発、太陽石油など9社が出資する燃料DME製造(FDME)は18日、新潟市のDME普及促進プラント8万トン/年の試運転を終了し、09年1月からも初出荷する運びとなったと発表した。

FDMEは、19年4月に9社で設立、ジメチルエーテルの製造設備を建設していたが、6月に8万トンのDME普及促進プラントが完工、試運転を終了し、12月に出荷用ローリー車両2台(11トン積みバルクローリー2台)を確保し生産・出荷体制を整えてきた。

経済産業省の補助金を受けて建設を進めている燃料DMEの第1号利用者のボイラー設備が完成し、設備使用許可が得られ次第、09年1月にも初出荷する運びとなったもの。

FDMEでは、普及促進プラントで製造されるDMEをボイラー、工業炉、発電機(含む燃料電池)、自動車(ディーゼル燃料代替)、化学品原料等の各分野に供給しながら普及促進活動を進め3Eの観点から、将来日本にとって必要不可欠な燃料として利用されるよう取り組むことにしている。

DMEはLPガスやディーゼル燃料などを代替・補完する21世紀の新燃料として注目され、(1)取り扱いが容易=LPGガスに似た物性、(2)クリーン燃料=重油や石炭に比べCO₂の発生を削減できる。ススやSO_xを発生しない、(3)原料の多様性、持続可能性=天然ガスや石炭、バイオマス等から容易に製造できる、(4)用途の多様性=LPGガス、ディーゼル燃料、重油、灯油などの代替・補完燃料として、ボイラー、工業炉、自動車、発電などに広く利用でき、石油化学原料としての利用も期待されている。

また、今回導入したローリーは燃料DME専用に製造された車両で、新潟の普及促進プラントから需要家サイトへの輸送に使用。需要家の様々な受け入れ条件に対応できる設計で、1台は液中ポンプ、もう1台はコンプレッサーを搭載している。積載量はともに約11トンで、DMEの転送業務はニヤクコーポレーションが行う。